令和４年度 全国学力・学習状況調査 結果分析

及び 学力向上への取り組みについて

羽曳野市立古市南小学校

〔 実施日･対象学年 〕

・令和４年４月１９日（火）
・第６学年

〔 調査内容 〕

・国語・算数 ・・・・（ア）と（イ）を一体的に出題。
（ア） 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識･技能など
（イ） 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
・理科
・学習状況調査 ・・・ 生活習慣や学習環境に関する質問

〔 本校児童の特長と課題 〕

本校児童の特長

（国語）

・基本的な漢字の書き取りの問題は、大阪府や国の平均と同等、もしくはそれを上回る正答率であった。
・選択式の問題や、短い言葉で答える問題についても、正答率が高かった。

（算数）

・基礎的な計算や、「最小公倍数を求める」、設問に合った「立式をする」、といった基本的な問題は、９０％を超える正答率であった。
・提示された説明の型を利用して、自分で選んだ立式の訳を記入する問題も、９０％の正答率であった。

（理科）

・実験器具の名前や、実験の手順、自然現象が起こる理由を問われる問題では、正答率が高かった。基本的な知識をしっかりと身につけていることがうかがえる。
・全教科を通して、無回答率は大阪府や国を大きく下回り、あきらめずに取り組もうとする姿が見受けられる。

（学習状況調査アンケートから）

・「人の役に立つ人間になりたいと思う」「友達と協力するのは楽しい」の質問に対する肯定的回答は１００％である。
・国語、算数、理科ともに「学習したことが将来の役に立つ」と考える回答が多い。

本校児童の課題

（国語）

・記述式の問題において、条件（例えば、「選んだアイデアに対する問題点の解決方法を書く」といった書く内容に対する条件や、「８０文字以上１００文字以内」といった文字制限の条件など）の全てが揃っていないために、不正解になってしまった誤答が多かった。日頃、書く活動の中でも、限られた時数の中で簡潔に思いや考えを表現したり、要約したりする取り組みが必要。

（算数）

・図形をかくためのプログラムを作る課題では、正答率は少し下がった。見慣れない形式の問題であったことも影響したかと思われる。タブレットを使ってのプログラミング学習は行っているが、どのような手順でプログラムを作ったらいいのか、論理的に思考し、言語化し、重複やもれ落ちなく順序良く整理したり、考えたりする機会も必要である。

（理科）

・日光を鏡に当てて、光を反射させる場面を問う問題において、実験結果を導くための適切な資料を選ぶ課題や、実験結果の根拠を問われる課題では、正答も多かったが、何が根拠になるのかがつかめていなかったり、正答になる条件がそろっていなかったりした誤答も少なくない。

（学習状況調査アンケートから）

・自分で計画を立てて学習したり、授業の予習・復習をしたり、学校の授業以外に学習する（塾なども含む）時間が少ない児童の割合が高い。また、学校の授業以外の時間で読書をする時間が少ない児童も多い。
・週末や放課後、夜遅くまで長時間にわたって対戦型ゲームやインターネットをしたりして過ごしている子の割合が多い。

［課題克服と学力向上への取り組み］

★主体的に考える力をつける
　見通しをもって授業に臨むことができ、主体的な学びをめざすために「めあて」「考え」「まとめ」など４５分の授業の流れを明示する。
　４５分の中で、考え・まとめ・振り返りなど、特に子どもたちが自分の言葉で書いたり話したりする時間を保障する。
　言語については、授業で学習する時だけでなく、繰り返し復習し、文章の中で正しい使い方を

習得できるように、漢字なども意識して使う習慣をつけるように指導していく。
　また、算数科においては、低学年から系統立てて絵や図を用いて考えることから、図や数直線、線分図を使って考えることができるように指導する。また、その手立てを用いて自分で考える力を養う授業づくりをめざす。さらに他教科においても、学び合う場面でのポイントを明らかにし、児童が有効的な話し合いを行うためのスキルを身につけさせる。児童が主体的に考える授業ができるような、指導の手立てを研究する。

★読書活動の推進と自学自習力の向上
　毎日朝読を継続して行うこと、読書月間には「家読（うちどく）」の企画などを通して、家庭でも児童と一緒に読書を楽しむことなど、協力を呼びかけることは今後も継続して行っていく。
　さらに、毎週１時間、各クラスの図書の時間には、児童が多くの本、様々な分野の本に触れ、読書の質を高められるように、学校司書と連携して取り組む。その他、たけのこくんボックスを利用し、学級図書の充実を図っている。さらに、情報センターとしての図書館の役割を充実させ、教科内容と関連した図書資料を紹介するなど、個やグループでの調べ学習や教科横断的な発展学習につなげている。
　また、自学自習力の向上を目指して、年度初めに、各学年の家庭での学習時間の目標や学習方法、望ましい生活習慣などを明記した「家庭学習啓発プリント」を引き続き配布する。配布するだけで終わらずに、学校と家庭とが連携をより密にしながら、児童が主体的・継続的に学習に取り組んでいけるよう、基本的な生活習慣や学習の習慣が身につくよう声かけをする。
　４年生以上では自主学習の取り組みを継続する。自主学習の仕方プリントを出し、書き方やまとめ方などの見本・手立てを示して、取り組みのヒント・ガイドにしている。優れた内容や工夫されているノートを紹介するなどして、いろいろなやり方や考え方などに気づき、より多くの学習方法を取得していくきっかけにしていく。